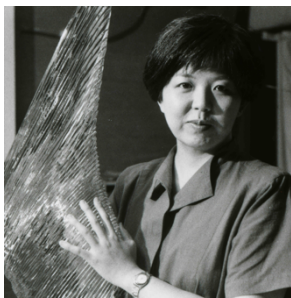


NIYOKO IKUTA

生田丹代子



息を止め、耳を澄ませば、確かに。生田丹代子さんのガラスが奏でる光の旋律が聴こえてくる。はじめは消えて無くなりそうな小さな音。それは夜明け、黎明、物語が始まる予感でもある。そして音はガラスの稜線から零れ落ちるように、その流れは徐々にスピードを上げ、時空の端々から無数に集まり、やがて滝のように。旋律はこだまし、また無と帰す。そして、永遠へ。生田さんは決してガラスを扱っている訳ではない。光と云う名の音符を自在に操るのだ。無数のガラスの断面が重なり、交差し、うねり、ひねり、織りなすメロディー。ただ、直感的に届く美のなかに内在する思想は山々より高く、大海より深い。空とは、無の境地。乱反射する光に目は眩む。しかし、瞼を閉じて初めて気付くモノの真意。作品が放つ圧倒的な透明感は水鏡となり、作家そのものを映し出す。

同じく、私は生田さんと話す度に、すべてが見過ごされているような錯覚を覚え、心が顫になる。その凛としたお人柄は作品と同じく、見るものを浄化し、まるで自分の存在が空へと溶けて消え行くよう。その代表作「空」に心奪われ、口を開けたまま呆然と立ち尽くす人を何度、世界のフェアで目撃してきたか。もはや直感的とも呼ぶべきその圧倒的な衝撃は変わることはない。私も同じく、胸を打たれた者故に。生田さんと出会ってから13年もの年月が過ぎ、ロンドンからニューヨーク、シアトル、マーストリヒトやロスアンゼルスと共に旅し、共にギャラリーだけでなく、私自身の成長を見守ってくれた生田さん。無名の20代の私を信じ続けてくれて、感謝の念に堪えない。共に歩み、夢が現実となっていく。「空」は「虚」ではなく、「実」である事を知る。

プロフィール

1953: 京都市に生まれる

1976: 京都薬科大学卒

受賞歴

- 京都市美術館 “京展”市長賞 ('86)
- “日本のガラス展” 日本ガラス工芸協会賞 ('87)
- 京都市芸術新人賞 ('90)
- 国際ガラス展金沢、銀賞 ('90)
- 能登島ガラスアート・ナウ、特選 ('91)
- “大阪トリエンナーレ彫刻”特別賞 ('98)
- “国際ガラス展金沢”銀賞 ('01)
- 京都美術文化賞 ('14)
- 京都市文化功労者 ('17)

パブリックコレクション

- 横浜美術館
- 能登島ガラス美術館
- サントリー美術館
- 東京国立近代美術館
- 国立国際美術館
- 京都府
- 大阪府
- 伊丹市
- 羽曳野市
- 富山市
- バーデン州立美術館 (ドイツ)
- レンバーグ城
- クリスタレックス (チェコ)
- ローザンヌ装飾美術館 (スイス)
- MUDAC (スイス)
- ボイマンス・ヴァン・ペーニンゲン美術館 (オランダ)
- デトロイト美術館 (アメリカ)
- コーニングガラス美術館 (アメリカ)
- カフェスジアン アートセンター (アルメニア)
- ヴィクトリア&アルバート美術館(イギリス)
- ブリストル美術館 (イギリス)
- フィラデルフィア美術館 (アメリカ)
- リングリング美術館 (アメリカ)
- メトロポリタン美術館 (アメリカ)
- ジュピター美術館 (中国)
- 龍美術館 (中国)

モニュメント

- 京新山
- 写真化学草津工場
- パレスホテル東京
- O S ビル大阪・安田生命府中研修所
- 広島女子大学
- 神戸新聞社
- 八尾市総合体育館
- 神戸新聞社 松方ホール
- 在ベトナム日本大使館
- ホテル グランドアーク半蔵門
- 東京霊園
- ファイザー・ファーマシューティカルズ株式会社 (名古屋工場)
- 青山パーク
- 今治地区火葬場
- ANA クラウンプラザホテル 岡山
- ベニンシュラホテル
- 志摩観光ホテルベイスイート等